

ぼくは、あるひしつたのだ。にほんじんは、むかし「ひらがな」というもじをはつめいしたこと。かんじもあるが、これはちゅうごくのことばであることを。

それからというもの、ぼくは、ひらがなだけでいきていくことをけつした。

しようにくせいはんじを1000もじいじょうおぼえなくてはならないが、ひらがなだけだと50もじいないですむのである。

ぼくは、あつというまにひらがなをマスターし、かんじをつかわないでいきていくことをけつした。

かんじをつかわなくなつてはや2ねん。ぼくは、2つのことにきづいた。

ひとつめは、ぼくのかいたぶんしようにを、ほとんどのひとが「よみにくい。」というのであつた。

ぼくには、そのいみがちよつとわかからない。

ふたつめは、なぜかぼくだけ、いつもかくすぴーどがほかのこよりもちよつとおそいのことである。それもなぜだか、ぼくにはちよつとわからない。

問題一 ぼくが知ったこととは、漢字は、

の言葉であること

氏名

問題二 なぜぼくは、漢字を使わないで生きて行こうと決意したのか。

問題三 漢字を使わなくなって困った事とは

※終わったら主語述語